



2017年度 天文資料

平成29年度 第2号 (5月号)

平成29年 4月30日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



<木星が見ごろ、C/2015 V2 ジョンソン彗星が5~6月最大光度に>

今、宵の空に明るく輝く木星、明るさは約-2等級で、太陽、月、金星の次に明るく「夜半の明星」とも呼ばれています。ここしばらくは、おとめ座の1等星スピカのすぐ近くにあり、木星が明るいためにスピカが目立たなくなっています。

また、2015年に発見された「C/2015 V2 ジョンソン彗星」が、6月には太陽に最接近するので、5~6月は約5等級の明るさになります。5月の中ごろから6月上旬にかけて、うしかい座の中を移動していきます。肉眼での観察はちょっと無理ですが、双眼鏡を使えば、尾を引く姿を見ることができるでしょう。今回は、太陽系最大の惑星、木星と、C/2015 V2 ジョンソン彗星を紹介します。

<太陽系最大の惑星、木星>

太陽系の中で、内側から5番目の惑星である木星は、直径が地球の11倍もある太陽系最大の惑星です。質量は地球の約320倍、これは大きさの割には小さい値です。それは、体積1cm³あたりの質量、つまり密度に違いがあるからです。地球の密度が約5.5g/cm³であるのに対し、木星の密度は約1.3g/cm³と小さいのです。その理由は、惑星を構成する物質の違いにあります。地球は主に鉄などの金属と岩石でできているのに対し、木星は水素・ヘリウムを主成分とする主に気体でできているのです。また、木星は、9時間55分に

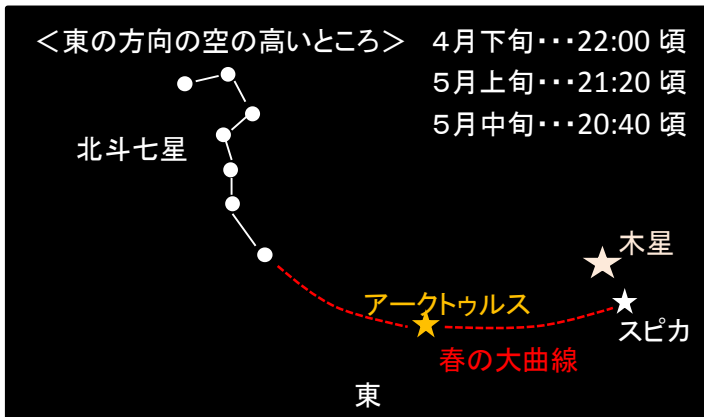


探査機が撮影した木星

1回という短い時間で自転しているため、その遠心力により、赤道付近が膨らんだ形になっています。木星には、60個以上の衛星が発見されていますが、そのうち4個は大きく、地上から小さい望遠鏡でも見ることができます。今木星は、春の大曲線の先端の星、おとめ座の1等星スピカの近くで明るく輝いています。望遠鏡をお持ちでしたら、木星に合わせてみてください。木星と4個の衛星を見ることができます。ただし、衛星が木星の後ろに隠れることもありますので、見える衛星が4個でない場合もあります。

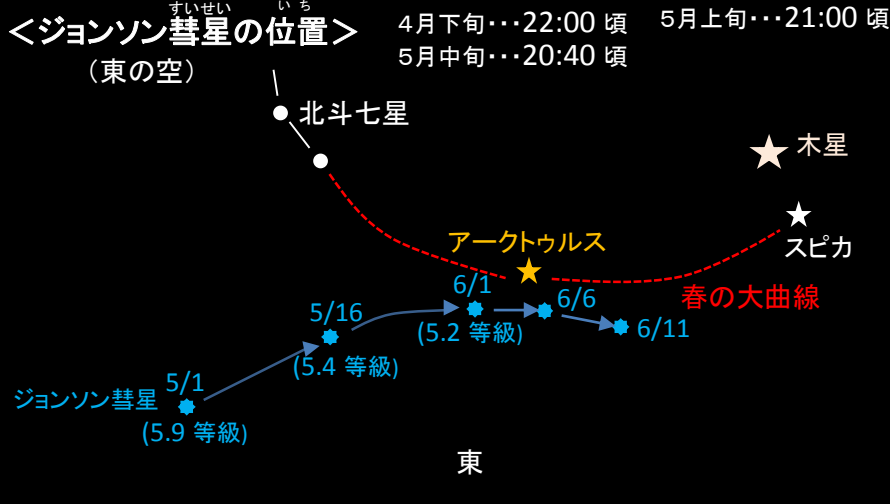


小型の望遠鏡で見た木星



<C/2015 V2 ジョンソン彗星が見ごろ>

C/2015 V2 ジョンソン彗星は、2015年11月3日にカタリナ・スカイ・サーベイ※1のJ. A. Johnsonが発見した彗星です。新しく明るい彗星が発見されない限り、明るい彗星の話題に乏しい今年ですが、最大光度が5等級台と予想される彗星です。でも、肉眼での観察は無理がありそうで、双眼鏡が必要でしょう。太陽に最も近づくのが、6月12日です。5月後半から6月にかけて、最も明るくなります。5月の末から6月の初めにかけては、「春の大曲線」の真ん中の1等星アークトゥルスに近づきますので、見つけやすくなります。双眼鏡をお持ちの方は、アークトゥルスの近くを探してみてください。その後はアークトゥルスから遠ざかりますが、7月あたりまでは、6~7等級で輝くはずで



※1 アメリカのアリゾナ大学の月・惑星研究所が行っている、地球に接近する軌道を持つ彗星や小惑星などを検索する組織。